

社会的に孤立している人々への支援にむけての取り組み



① あいさつや声かけ、訪問活動を通じて地域住民とのつながりを強化しよう！

- 普段のあいさつや声かけで地域住民が「自分の存在を気づいてくれている」「気にしてくれている」と感じる関係性をつくるのが大切です。
- 問題を抱えながら声をあげられない人たちを支援するために、積極的に訪問活動を行ない、住民と顔見知りになりましょう。

② 助けあいのできる、SOSを出しやすい地域づくりを進めよう！

- ヒアリング調査で紹介した、地域での困りごとに対応する取り組みは、それぞれの地域で実践できる内容がどこかに含まれています。
- それぞれの地域で実践している取り組みから地域のニーズに応じて広げていくことで支援が広がります。自分たちの地域に今あるネットワークから、できる範囲で始めていきましょう。
- 当事者（地域の人々）がお客さんになるのではなく、主体的に活動できるようなしかけをつくりましょう。
- 自宅以外の自分の居場所が住みなれた地域にあることや地域とのつながりが孤立を防ぎます。「居心地がよいと感じる居場所」はみんなでワイワイ交流する場、人の気配が感じられるくらいの距離感の場所等、さまざまです。つながりをつくりたい参加者に応じて進めていきましょう。
- 担い手については、地域住民とともに行う、専門機関主導で行う等、地域の実情に応じて多様にとらえます。

③ 関係機関や校区福祉委員会等との連携を強化し、地域の力を高めよう！

- 複合多問題へ対応していくためには、地域に存在する多様な関係者・関係機関とつながり、支援を実践する必要があります。民生委員は、当事者と多様な地域の関係者とをつなぐ「結び目（=ハブ）」になりましょう。
- フォーマル・インフォーマルも含めて支援者らが、情報共有をしたり支援目標の意思統一を図れる場をもちましょう。
- 関係機関等のできることや強みを知りましょう。
- 助けられ上手、助け上手に誰もがなれるよう、住民同士が支え合える仕組みづくりを進めましょう。

④ 地区委員会等で事例検討を実践し、活動を見直す機会をもとう！

- 事例検討をとおして、自分たちの活動や役割をふりかえり、見える化することができます。
- 事例検討を実施することで、問題を抱え込まずに共有することができ、経験の浅い委員のスキルアップにもつながります。
- 支援に「これが正解」という答えはありません。いろいろな人の意見を聞き、さまざまな価値観や支援の方法があることを学びましょう。
- 当事者や関係機関の強みを考えるとともに、自分自身の強みを支援にどう活かせるかを考えましょう。(⇒参考:「相談援助のこんなときどう対応すればいい!?」を考えるハンドブック」平成29年7月発行)

⑤ 学びの場をつくろう！

- 地域住民のひとりとして、まず民生委員が地域課題や当事者を理解することが大切です。
- 学ぶ機会を自分たちの民児協や地域でつくり、理解者を増やしましょう。実際に話を聞くことで、当事者理解につながります。

⑥ 全委員による児童委員活動を推進しよう！

- 子どもの抱える課題は家庭状況を反映したものが多く、家庭全体への支援が必要です。民生委員が児童委員を兼ねているからこそ、親子双方に関わり、さまざまな機関と連携して家庭全体への支援を行うことができます。
- 子どもの生きづらさの背景には親の状況が影響しています。
- 課題を抱えた子どもたちには、自己肯定感をもてるような居場所や信頼のできる大人の存在が必要です
- 児童委員として積極的に子どもたちの「身近な大人」となり、地域の「子育て応援団」となって活動していきましょう。

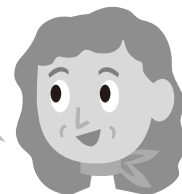
⑦ 連携の幅を広げよう！

- 民生委員がひとりで抱え込まないように、民児協としても民生委員同士が連携・協働できる環境をつくっていきましょう。
- 関係機関と顔の見える関係づくりをしておくことが重要です。またチームで動ける体制をつくっておくことで、当事者に変化があったときにすぐ対応ができます。
- マップづくりやヒアリング活動など、地域にある社会資源について知る活動を積極的に進めましょう。
- 複合的な課題を抱えている場合、公的な支援やサービスで対応が困難なケースもあります。地域の社会福祉施設と連携し、社会福祉施設の設備やノウハウ等を活かした仕組みづくりに取り組みましょう。

社会的に孤立している人々への支援 ポイント

発見する・つなぐ・見守る + 工夫

支援を求める声をあげない人たちをどうやって発見すればいいの？



■ 地域住民から情報がもらえるような日頃からの関係づくり

- 近所の方から民生委員に連絡があり、近所の方と一緒に訪問した【事例2】
- 母親と主任児童委員がもともと知り合いであった（小学校のPTA活動で関わっていた）ことから相談を受けた【事例4】
- 隣近所からの情報は大切なので、常にアンテナを張っておくこと【事例7】
- 地域の人と声かけやあいさつを日頃していることが信頼関係につながると感じた〈奏一かなで一〉
- 日々、地域の人に気軽に声をかけてもらえる態勢を自分でつくっておきたい。声かけやあいさつの大切さを再認識した〈奏一かなで一〉



■ 普段の活動の中からの気づき

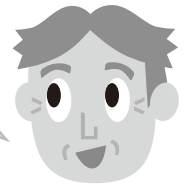
- 育児教室に主任児童委員が参画している【事例7】
- 子ども食堂のような取り組みがあれば、一緒にやってほしい。継続してその場にいると、課題を抱えている子どもが分かってくるようになる〈こどもの里〉
- その人の変化やサインに気づくことが大切〈こどもの里〉
- SOSをキャッチする力が必要であり、経験を積んでいかなければならないと思う〈こどもの里〉
- 民生委員がボランティアとして参加協力されていた。人の集まる場所には、民生委員として必要な情報があると思う〈カフェ頼政道〉
- 自ら発信できない人たちの存在に気づき、アプローチをする必要がある〈奏一かなで一〉

■ 関係機関からの情報提供

- 家庭児童相談室の担当者から見守り依頼があり、母親や子どもたちとの顔合わせをしてから関わりを続けている【事例6】
- 保健センターの検診が未受診であったことから、保健師と訪問した【事例7】



「つなぐ」のは行政だけでいいの？



■ 行政や社協、地域包括支援センター等の関係機関へつなぐ

- 介護保険の申請につないだ【事例2】
- 子どもの居場所づくりをしている地域のNPO法人につなぐ【事例5】
- 社会福祉協議会の学習支援につなぐ【事例5】
- 行政や学校等と話し合い、生活保護を申請、受給に至った【事例6】

■ 当事者と地域のつながり、地域での居場所をつくる

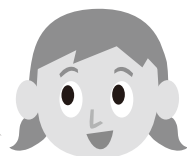
- 孤独にならないよう行事等の参加を促す【事例2】
- 問題には触れずに、同じ地域住民として関わりをもち続ける【事例4】
- 地域で協力してくれる人を見つける【事例5】
- 民生委員としては、カフェやサロンの情報を伝えることが重要〈カフェ頼政道〉



「連携」「協働」って具体的にどんなこと？

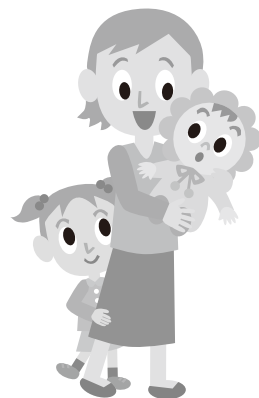


- 関係機関の職員と何度も話し合いの場をもった【事例1】
- スーパーの店長に事情を話して、Aさんが来たら民生委員へ連絡してもらおうよう頼んだ【事例1】
- 校区福祉委員（毎月友愛訪問を実施している）と連携し情報を共有する【事例2】
- 民生委員、主任児童委員、ボランティアでチームを組んだ【事例3】
- 行政の保育士と一緒に掃除等の生活支援に入った【事例5】
- 体操服は学校で預かってもらうようにした＝関係機関の強みを活かす【事例6】
- 関係機関と顔の見える関係をつくる必要がある〈こどもの里〉
- 「チームシップ」ということばが印象的。ボランティアに横のつながりができている〈カフェ頼政道〉
- 民生委員はひとりでは動けない。チームで動くようなシステムを地域で作っておく必要があると感じた〈奏一かなでー〉



■ 当事者と信頼関係を築く・ねばりづよい支援

- Aさんの好きなもの（お花）を通じて、以前から近所の方として関係性を構築できていた【事例1】
- Cくんが好きなゲーム等を勉強して、共有できる話題で登下校できるようにした【事例3】
- 関係を切らずに継続して見守っていく【事例6】
- 訪問当初は家の中に入れてもらえなかったが、何度も訪問するなかで母親との人間関係を構築していった【事例7】
- 何年も関わってやっと非行の原因について子どもが話してくれたというエピソードがあった。時間をかけて信頼関係を築いていく必要があると感じた〈こどもの里〉
- 相手が心を開いてくれるまで何年も要することもあるが、地道に向き合うことが大切〈こどもの里〉
- ひきこもっている方と現在も関わっている。今までと同じようにゆっくり支援をしていこうと思った〈奏一かなでー〉



■ 当事者の思いを否定せずに傾聴する

- 話を聞くことで、Aさんは落ち着くようになった【事例1】
- Aさんの不安な気持ちに寄り添い、話を聞くことで信頼関係を維持した【事例1】
- Bさんの話を否定せずに受け止め、本人の思いを尊重する【事例2】
- 母親のがんばっているところをほめ、認める【事例6】

■ 日常生活のなかで見守り活動を行う

- 家の外から見守り（電気が点いていない等普段のようすと異なるときは訪問する）【事例1】
- 日常的な見守りを近隣の方にお願ひし、Bさんを間接的に見守っている【事例2】
- 主任児童委員としてもNPO法人にボランティアとして参加し、状況を把握し、随時必要な支援を行う【事例5】



■ 当事者の家族へのアプローチ

- 息子たちとも話をして信頼関係を築く【事例2】
- Cくんの支援（学校の送迎）をするようになってから、母親が精神的に落ち着いた【事例3】